



第 10 号 ぐるーぷ「倶楽志」in 飯能

—すむ、きる、たべる文化交流—

<http://groupkurashi.seesaa.net>

代表 相田通子
〒357-0045
飯能市笠縫409-7
TEL/FAX 042-974-3538
sugita22@mve.biglobe.ne.jp

総会および「飯能の幕末」
「明治期の人物史」を追って
～谷中霊園&雑司ヶ谷霊園など～

ずうっと皆で飯能に関わりある幕末期の歴史・人物史を少しずつ紐解いてきました。飯能の幕末期に関係のある人物「井上頼圀」を発端にいろいろな人物の相関図たとえば最初の女医「荻野吟子と田中かく」毛呂の権田直助などなど・・・。



埼玉妻沼出身の日本で最初の女医「荻野吟子」の墓

そして今回は飯能の経済・産業に尽力を尽くされた武蔵野鉄道(現西武鉄道)の創始者そして平沼銀行(横浜銀行)を設立された平沼専蔵氏にスポットを当て、明治維新後に多くの人材に影響を及ぼした山岡鉄舟と平沼専蔵とのかかわり・・・特に「谷中の全生庵」はまさしくその足跡がくっきり残っております。この場所は今でも多くの政治家：中曽根康弘氏などが訪れ、祈願するところでもあります。今回も前郷土館の館長：浅見徳男氏をお迎えいたし、貴重な説明をしていただきました。



前郷土館長浅見徳男氏

商で成功明治20年平沼銀行(現横浜銀行)を設立 山岡鉄舟のパトロンとなる。鉄舟はたびたび飯能・小川町を訪れ、たくさんの書を寺や特に小川町の忠七めしは鉄舟が好んで食べた処。その部屋は今もあり、その足跡を残しています。



平沼専蔵

山岡鉄舟： 剣・禅・書の達人。西郷隆盛をして「金も要らぬ。名誉も要らぬ、命も要らぬ人は始末に困るがそのような人でなければ天下の偉業は成し遂げられない」賞賛。明治天皇の教育係・徳川慶喜に仕え幕臣として活躍した後に(子爵を授す)政治家としても活躍。国家への忠誠心と情熱、誠実さを知らされる人物。



全生庵の山岡鉄舟のお墓の前で

山岡鉄舟と荻野吟子と夏目漱石に交流の深かった飯能の人々／本橋良浩

東京墓地巡りの初めに、まず雑司ヶ谷霊園の夏目漱石墓地に行く。浅見徳男氏の案内で説明を受けました。どうして飯能と夏目漱石が関係あるの

平沼専蔵： 飯能生まれ、幼少期を今宿村(現鳩山町)で過ごし、安政6年江戸に出て千住の材木商から横浜の石炭商に移り、後に貿易

か、といぶかしく思われる方もいるかもしれません。実は・・・・・・・・。

夏目漱石の小説『草枕』の冒頭は「山路を登りながらこう考えた。智に働けば角がたつ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくこの世は済みにくい。・・・」として旅が始まりますが、実はその山路を同行した飯能出身の英語教師がいました。熊本五校の同僚で、一高・東大と共に英文学を学んだ仲であった。その人の名は飯能市下赤工出身の山川信次郎という人であった。夏目漱石は英国留学の論壇から山川信次郎宛に「僕が帰ったらだれかと日本流の旅がしてみたい。小天行きなど思い出す」と語るほど忘れられない旅だった。共通の友であった正岡子規は夏目漱石を畏友と呼び、山川信次郎を賢友と呼ぶ友であった。

今まで夏目漱石や正岡子規の研究家の間しか知られていなかった山川信次郎を飯能をこよなく愛する浅見徳男氏は、飯能下赤工の山川気の墓地(父達造・兄義太郎)を訪ね、また山川信次郎墓地(東京の法樹院)訪ね更に子孫の方にも取材している。山川信次郎の弟・弘毅(一高・東大卒、海軍兵学校教授)は、この夏目漱石墓地から北川百メートルぐらい離れたところに眠っている。

「山川三兄弟」として知られた。詳しくは浅見氏が研究書を上梓されるだろう。

夏目漱石墓地をあとにして荻野吟子墓地を訪れた。飯能の女傑と称された明治の女丈夫・田中かく子は荻野吟子と生涯の友であった。荻野吟子は八歳年下の田中かく子をこよなく愛し、手紙を交わし友情を深め、飯能市立郷土館には田中かく子に宛てた荻野吟子の直筆が保存されている。浅見徳男氏は二人がどのようにして出会ったのか、東京の埋もれていた資料などを手がかりに、知られざる荻野吟子の青春を浮かびあがらせてくれました。

雑司ヶ谷霊園をあとにして訪れた谷中霊園には、荻野吟子の妻沼時代の師・松本万年・荻江(東京女子師範教授)は課や吟子の病氣治療にあたった順天堂の医師・佐藤尚中墓もあります。ほかに谷中霊園に山川信次郎の父・達造の師友であった池田徳太郎墓(青森知事)がありますが、同志と

して共に幕末を駆け抜けた山岡鉄舟の全生庵(ぜんしょうあん)に向かった。山岡鉄舟と言えば、飯能出身の平沼専蔵ですが、浅見徳男氏は『飯能ペン』(最終号)で「山岡鉄舟と飯能」というエッセイを寄稿されている。また『飯能ペン』(第19号)では「山川信次郎と夏目漱石」が掲載されていますので併せてお読みください。

今回の谷中霊園では徳川慶喜墓の前で、親切にガイドしてくれた人に出会った。徳川家十五代のうち慶喜のみ神葬祭であったが、埼玉深谷出身の渋沢栄一がいかに関わり協力したかを熱く語っていただいた。これも今回の墓地巡りの功德の一つであった。

◇◇

仲秋待宵 月語り

催しに参加!

～日暮里本行寺:月見寺にて～

24年9月29日 月と太陽の暦製作室・<月の会>主催の催しに参加いたしました。



三田村有純氏作品<漆芸作家、東京藝術大学教授:月をテーマの作品多数・漆塗り>

明日は毎年恒例「仲秋の名月」の催しですが、その前にもっと月の事が知りたくて参加しました。月曆(千五百年)が長きにわたって使われてきたとか、月にまつわる行事など不思議な事が好奇心をそそり「月と太陽の曆」や本を買い求め、今勉強中ですが……。皆様もこれからこだわって月を眺めてみてはいかが。



飯能市エコツーリズムと共催事業
名刹で楽しむお月見ツアー
～飯能偉人伝と共に～

平成 24 年 9 月 30 日、飯能の歴史ある名刹「能仁寺」でお月見ツアーを開催しました。



能仁寺ご住職

4 月に谷中、雑司ヶ谷の霊園を訪れましたが、それをもっと飯能市のエコツーリズムと共催でより盛り上げようと企画致しました。最初に飯能市郷土館で学び、飯能市在住の平沼専蔵氏の直系の方々(平沼ガソリン、エコツーリズム担当の大野悟氏、大橋通子氏)をお迎えいたし、教科書には載っていない事実などを語っていただきました。そして由緒ある能仁寺本堂をお借りいたし、お月見の行事である団子ススキなど皆様と飾り、長唄の音色を聴きながら浮世の世界を堪能いたしました。あいにく台風到来で……。月見えず。残念。



武蔵野鉄道開通の経緯に携わった平沼専蔵氏と私の祖父について / 大橋通子

乱世・俗悪世を或る偉人は遺訓の中の一節に次のように宣べておられます。「物質的文化に編重して精神文化を嘲り、科学的知識を過信して哲学的叡智を斥け法制経済に熱中して道德宗教を軽んずるは文化の理想と創造とに於ける偏見なり」と。家系(父・母・祖父母で兄弟は除いて)10代を遡れば2024人・20代遡れば100万人の先祖がいるのです。「飯能の偉人伝と観月会」なる優雅と風流にあふれた趣を好む同志が名刹「能仁寺」に集い、語りあう機会がいただけるのも系譜を辿れば各々がなんらかの相通ずる深いご縁を持つ人達の集い信じられるのです。唯々有りがたい思いでございます。



大橋通子氏と平沼雅義氏

さて本論武蔵野鉄道の開通の経緯に関わる件でほんの少々きりお話できるものがないのです。おおいに関わった人物として語るべき私の祖父

(父方)は私の生まれる 13 年も前にこの世を去って居り、政治家として活躍し、皇室との交わりも豊かだった等の証明となる資料は昭和 30 年代に消失されてしまい。残念極まりない処です。

祖父・梅田穎三郎(かいさぶろう) (国学者：井上頼圀<荻野吟子・田中かくの恩師>の弟子) は学者梅田理平の三男として明治 5 年現在の入間市南峯生まれ、明治大学法学部を卒業。やがて制政界に船出し「原 敬・大隅重信」の内閣にて国会議員を勤める中内務、外務宮内省に於いても役をなし、各々から給料を受けていたとの事、祖母から子供のころ聞き及んでいたが今では不思議と思える話です。晩年は東京府北豊島郡々長、又遠くは愛知県の某郡々長を歴任し、埼玉県知事に内定し故郷の金子村の自宅に一家で帰って来て間もなく愛知で感染した結核が悪化して私の母が父のもとに嫁いだ大正 3 年 2 月当知事に着任、寸前にこの世を去ってしまったのです。代議士

(政友会) 在職中、飯能の有力者平沼専蔵はじめ金子能・金子氏等が武蔵野鉄道の開通をつけるべく国会の梅田穎三郎のもとに日参されていた由。祖父は明治天皇がご宿泊された宿の金子旅館の娘

(長女津称)と云う縁を受け祖母を娶ることとなり、東京附の諸々の機関で夫婦共々お役をいただき働かせて貰ったとの事にして、妻の実家の地域発展のためには力を惜みず、まごころからの応援、尽力を投じたとの事、又平沼さんを中心に資金も準備されて居られたことから、お互いに尽力を重ねた末、鉄道開通にこぎつけ、めでたくこの一大事業が成就され、長い武蔵野鉄道の歴史を経て、現在の西武鉄道に受け継がれて多方面の人々の足となりその大いなる便を担っていることにもなるわけです。

このご縁で祖父と平沼専蔵氏とのその後の繋がりも公私ともにあったと察しられますが、私自身の中では定かではありません。横浜銀行の創立者であった平沼氏でありますから、政治家とも大いに交流は存在したと存じます。当時の実力者は一つの夢を達成させるには一途な思いを抱きとにかく純粋な考えを旨としコツコツ努力精進したことでしょう。男の美学も大いに意識として持ち続け進んだものかなと考えます。

志を立てるには未だ当分良き時代が続いて行ったのです。あの人達は共通して自分で定めた揺るがぬ意思を持ち続けていられたこととごさい

ます。

現在は一樣に目の前の事についつい反応してしまい易く曖昧な心の保ち方も有し、迷いも多く生じてきてしまう。何とも致し難い世相の先人たちを見習うべき処が多面に亘って非常に痛感してまいりました。老いたる今も現代に生きる者として、各々が見つめなおしてみてもどうかと思います。

◇◇

今回飯能市エコツーリズムと共催しておりますが、その職員でいらっしやる大野悟氏(写真)は平沼専蔵氏のご先祖(平沼茂平)と大野悟氏の曾祖父(平沼益造)と兄弟だったという事実から今回どうしてもエコツーリズムも絡めたいと企画し、その関係の方々に集まっていたいただき、語り合う場所を設定いたしました。歴史は誰かが発信していかないと埋もれ、消え去ってしまいます。偉大な：平沼専蔵：武蔵野鉄道(現西武鉄道)・横浜銀行の創始者などなど我々が誇れる飯能市の実業家を忘れてはいけないし、語り継いでいきたいです。(梶田通子)



大野悟氏

先祖「飯能市生まれ平沼専蔵氏の思いで」 ／平沼雅義

梶田様の能仁寺で月見の会を行うので、平沼専蔵様の話を少ししてくださいと言われて返事をしてしまったが、お話しする中味も考えず参席し、誠に申し訳ありませんでした。

当日、能仁寺には郷土館の元館長「浅見徳男氏」がおられ、ご紹介していただきました。私は何も

お話しする必要もないと思っていました。

私は祖父の周蔵に連れられて、神奈川の辻堂にあった専蔵翁の別荘へ行った話をし、当時は平沼氏専用道路がありましたが、今は湘南道路となっている。また平河町に屋敷があり、門衛が居て正面から入れるのは祖父・父と私だけで母は通用門です。戦前は男尊女卑の時代ですし、正面の屋敷は大山元帥の邸宅で衛兵が何人もいました。

専蔵氏は大正 2 年 4 月 6 日 78 歳で亡くなっていますので、平河町には平沼久三郎氏が当主でした。平沼周蔵祖父は専蔵氏のいろいろな商売に投資し、剣道の師であった山岡鉄舟(北辰一刀流を学び、後に一刀正伝無刀流を開く。剣・禅・書で大成。明治天皇の教育係。駿府での西郷隆盛との単身会談はあまりにも有名)には横浜銀行の前身の平沼銀行時代に大口の融資をする時に山岡氏の口添えがあれば公共工事・横浜市の水道とか早稲田大学の大隈講堂・武蔵野鉄道(現西武池袋線)など大金を投資したと祖父から聞いております。種々の資料を祖父は横浜へ貸したままで返りませんでしたので、周蔵の残した過去帳を読み判る範囲で申し上げます。



平沼専蔵は明治時代に横浜の今太閤と各地で言われ居り、その本人の中指には天下筋有と記されていた。飯能に生まれ、平沼安兵衛の長男は安五郎・次男は馬場太兵衛・三男平沼専蔵 次男の太兵衛の妻が比企郡今宿村の出身なり。専蔵氏 25 才の頃江戸時代に松本本家親戚赤沼石井重太郎の先代に江戸千住材木問屋・赤沼治左衛門方之奉公に上がり、約 1 年半程務める中に横浜の方へ

廻され、石炭屋を商う。渡辺福三郎氏先代時に勤め始め、炊事係その年の内に倉係と短期に上役になるようご主人に認められ、番頭を兼務する内に店内支配人まで上がり部下は 5・6 十人もいたとの事で、まったく努力以上の出世を致し、約 6 年ほどで勤務先のご主人が病気で死亡し、種々と考えたことを次男の兄と相談の上お暇をとり、新しい商売と考え、石炭・お茶・綿糸の中から選択して綿糸問屋を江戸に造り開業した。その間に資本を何十萬両も作り 7、稼ぎ通した。そして明治 8 年 4 月 5 日に生家へ参り、両親の法事を致し、田舎の親戚一周を招き、今坂餅 7 つずつ、反物を一反ずつ配り供養した。

第二回目は平沼専蔵氏横浜に出て 50 歳の時、明治 18 年 4 月 4 日生家に来り両親の戒名を致し、50 回忌として大法事を致す。横浜本町 2 丁目より家内中外に供を連れ来り、能仁寺に於いて大供養致す。その石塔は「高德院挟安良喜居士：俗名平沼安兵衛 33 回忌戒殊院心月智光大姉：俗名平沼ふゑ 50 回忌右の墓石戒名自筆山岡鉄舟であります。この石塔は能仁寺東墓地登り口にあります。(墓地移動した時に処理) 飯能小学校へ金：貳百圓寄付、能仁寺の桐堂金として金百圓外貳百圓を納め畳表替え百畳寄付、飯能町中の見物人：壺名に付大今坂餅 5 個天保銭 5 枚ずつ配り十銭札を撒銭し、住職吉峯外 9 名にて大法事供養致す。その後第三回は平沼専蔵氏両親の百回忌を能仁寺で行う。明治 27 年 4 月飯能町中の戸数を調べる事話あり。早速通知致したところ新喜根餅 7 菓子屋より東京馬車にて 15 入り折 350 個当地着致し壺戸之同居人迄壺折ずつ供養する事、外に川越菓子屋に注文致し見物人に饅頭 7 個ずつ供養する事。金参百圓を飯能小学校へ百回忌の寄付の事。能仁寺萩野先代住職他 7 名住職で大法事を済ます。4 月 5 日比企郡今宿へ廻り、松本家の圓正寺へ佛参し、一泊横浜居宅へ帰りました。祖父周蔵は伯父専蔵に種々と教えてもらう事があったが、崇拜もしていたので、先祖供養のことと神社の事等、孫の私は小さい時から連れられ、山へ禰とりに行かせられたり、墓の掃除などと大変でした。過去帳を読んでも他には説明することはありませんでした。

◇◇

飯能市エコツーリズムと共催
南高麗滝の入りタブの木を訪ねる&
新そば作り

富士浅間神社の上直竹自治会館にてタブの木にまつわるお話ミニトレッキング、そば作りなどを楽しんだ後、近くの石灰焼き場跡（北条氏の時代の八王子城をはじめ、江戸城などを作るのに当時石灰を掘って青梅街道を通り江戸まで運んでいました）や里山をのんびり見学。今年は川口の男女共同参画 W.L.B 「川口サンプラー」の方々も参加してくださいおおいに盛り上がりました。

2012 年 11 月 25 日、バスでの参加者は飯能駅北口のバス 8:32 発、間野黒指行きで上直竹下自治会館に向かいました。自動車での参加組も合せて 9 時過ぎに会館には、15 名が集まりました。まず、主催者の飯能市エコツーリズム推進室片野さんから挨拶、そして当地浅間神社の宮司武本さんのお話。浅間神社は成立不詳だそうですが、古来より神体山として富士山を崇め、500 年以上の歴史があるとのこと。



10 時前に自治会館を後にしてツアーがスタートしました。まず神社の横にある滝をみて、いよいよ浅間神社の神体山（富士山）に登山を開始し

ました。急な登りを登って暫くすると富士山の山頂に到着しました。山頂から遙か東京方面を眺望すると、彼方にビル群が微かに見えます。天気がもっと良ければスカイツリーも見えるそうです。

その山頂から少し降りたところに、本日の目的である樹齢 700 年のタブの木（イヌグス）があります。近づくともっと大きな木でした。木の麓で記念撮影をしました。この木は元々温暖な地域に自生するのに、なぜかこの地に根を張りました。埼玉県指定の天然記念物に指定されているそうです。



富士山をゆっくり下りてきて、11:30 に自治会館に戻ってきました。「お腹がすいたね」「そばが楽しみね」など皆さんの会話が弾みます。いよいよ蕎麦打ちです。講師は入間市の金子おやじの会の師岡さん。お手伝いの地元婦人会の皆さんも加わって 20 名ほどが 4 つのグループに分かれました。蕎麦打ちは 4 人前 800g（蕎麦、小麦粉が、8:2）で、水は 400g より少なめで、など、諸岡さんの指導で捏ねて、大きな饅頭を作り、延ばして最後に蕎麦切り包丁で切って完成！ともかく水の量、水回しで蕎麦団子の硬さを見て行くのがポイントだそうです。各グループは苦戦しながらもなんとか最後には蕎麦ができました。そして、大きな鍋で茹でて、完成です。婦人会の皆さんがカリッと揚げた出来立て天婦羅と一緒に打ちたての新蕎麦を頂きました。その美味しかったこと。



新蕎麦を堪能した後、里山をぶらぶら歩いて、石灰焼場跡を訪ねました。深まりゆく秋の飯能をゆったり楽しんだ一日でした。(渡部記)



ホットラインニュース

2月3～5日 With you さいたまフェスティバル

平成24年2月3日～5日埼玉県男女共同参画推進センターで開催されました。

埼玉県内で活躍する男女共同参画団体の日頃の活動、研究成果を舞台などではつびょうし、お互い交流し、理解し合う絶好の場所でもあります。我々も展示「足で歩き、目を見た歴史、人物新事実!!」(飯能市を中心に活躍した幕末、明治を中心に)で展示いたしPRしました。講演会で中山千夏さんの現代論「女も男もオンナで行こう!」と題して相変わらずのサバサバした口調で世の中の矛盾を語っていらっしやいました。



8月30日 埼玉県人会に参加

24年8月30日埼玉県人会と埼玉県が中心となり毎年開催「埼玉応援団大集合」。

「LOVE SAITAMA TOKYO 2012」と銘打ってふるさとの絆を深め埼玉の元気をアピール致しました。

大塚陸毅会長はじめ上田清司知事、落語家の林家たい平師匠(秩父出身)TBSのキャスター堀尾正明氏、飯能出身の秋沢淳子アナウンサー、全国公開の映画「のぼうの城」の原作脚本の和田竜氏等々たくさんの方々がいらして会場を盛り上げてくださいました。



9月2日 落語と小唄の舞台に花を

平成24年9月2日(日)会場:埼玉医科歯科大学 30周年記念講堂(国際医療センター内)で開催。若宮三千代さんの講演会長:丸木清浩氏のご挨拶で始まり、飯能出身の小唄師匠:若宮三千代さんと秩父出身の林家たい平師匠とのコラボレーションや「若宮の三千代世界(小唄)」「林家たい平の落語」と題して観客を魅了致しました。



私は毎回恒例ながら、今回は飯能の西川材を組み立てた花器に山々の木々をアレンジして舞台に花を添えさせていただきました。とても自然で自由自在に生けられるので満足です。今後花を通して皆様と交流できればと思っております。いつでもどんなところでも生けさせていただきますのでよろしく願いいたします。

2013年の活動予定

◇2月1日(金)～3日(日) 第10回 With you さいたまフェスティバル

今年も実行委員となって、フェスティバルに参加します。我々の活動報告の展示・広報誌などの紹介。講演会は「上野千鶴子氏」:(女が変われば社会はかわる) やクイズラリーや舞台発表など。

埼玉県内の活動を知るには絶好の機会です。是非いらしてください。



◇3月9日～10日 新年の会のご案内

お正月明けの日に、一泊でご来光を仰ぎましょう。餅つき、おとそ、秩父武甲酒造の酒蔵見学、そばどころで食事、などを計画しています。東京の「月の会」の方々との声掛けで月暦忘年、新年の集いをご一緒に企画いたしました。月の会の

(例年の行事若水の摂取、ご来光と新月の遥拝それに餅つきおとそ)などにこだわります。そばは武甲酒造の湧水使用。秩父神社、武甲温泉など立ち寄り予定。

◇3月17日 飯能市生涯学習フェスティバル

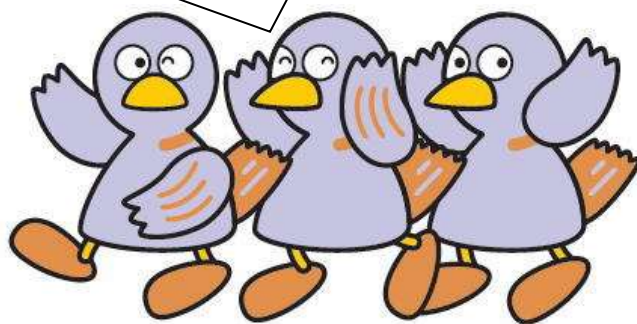
今年も飯能市生涯学習フェスティバルに参加します。

日時 3月17日 午前10時～

場所 飯能市富士見公民館

会の活動報告展示や舞台発表外では模擬店飯能すいーとん等々用意いたしております。たくさんの方々参加をお待ちいたしております。

ぐるーぷ倶楽志の活動って面白いね。
私達も参加しよ～っと。



埼玉県のマスコット「コバトン」

【会報編集】渡部直也(入間支部)が担当しました。



・ ・ あなたも、ぐるーぷ倶楽志 in 飯能に参加しませんか ・ ・

地域文化を大切に、広く伝え、育むことを目指す「ぐるーぷ倶楽志」飯能市地域は古い歴史と自然に恵まれており、特色ある文化を育んできました。特に、住む、着る、食べる、の衣食住は欠くことのできない大切な文化です。私たちは、地域文化を、**俱に、楽しむ、同志**として多彩な文化交流を目指します。そして、地域文化を学習すると共に、これを発信する場として交流を深めます。

※ 連絡は、梶田(スギタ) <電話 042-974-3538 携帯 080-3456-2623>まで 入会金 1,000 円